

## 参加型ヘルスケアと迅速学習-1 Participatory Healthcare and Rapid Learning-1

### 開催趣旨:

現在、ヘルスケアにおいては、ビッグデータやAIへの関心が高まっており、ICT企業の参入も国の研究支援も盛んになっている。しかし、サービスの視点からみると、それらは変化の始まりに過ぎない。次に来るのは、生活者が先導する参加型ヘルスケアと迅速学習の仕組みの組み込みである。

ICA (NPO 法人サイバー絆研究所) は、次世代ヘルスケアを特徴づける参加型ヘルスケアに実践的に取り組む努力を始めている。我々の最初の目標は、医師の処方箋を必要としない「薬にあらざる介入法 (Non Pharmacological Intervention, 略して NPI)」を活用するための基盤的な仕組み Platform を整備することである。またそれと併行して、そのような基盤を活用した研究に自らも取り組むことである。

そのための準備的な課題も多数ある。その中で我々がとくに重要視しているのが、次の2つの活動である:

- (1) ヘルスケアの基盤である生物医学研究の成果を迅速に学べる仕組みづくり。
- (2) 進歩が猛烈な ICT を活用する能力 (ICT Literacy) を習得し維持する仕組みづくり。

我々は、こうした仕組みを「迅速学習のシステム、あるいは環境、あるいはプラットフォーム (Rapid Learning System/Ecosystem/Platform)」と呼んでいる。迅速学習の仕組みをヘルスケアに組み込む重要性は、Rapid Learning Healthcare という概念として、米国ではすでに広く認識されており、取り組みへの努力が始まっている。

この連続した2つのセッション前半では、Rapid Learning Healthcare の概念を参加型ヘルスケアの視点から概説するとともに、事例を紹介する。

**モデレーター: 神沼 二真 Tsuguchika Kaminuma**  
NPO 法人サイバー絆研究所 Institute for Cyber Associates

### 1. 学習する医療システムとは?

**田中 博 Hiroshi Tanaka**  
東京医科歯科大学 Tokyo Medical and Dental University

### 2. 事例紹介